

简 讯

- ◇9月24日(周五)晚北京外国语学院穆大英副院长在专家餐厅举行欢迎新专家暨中秋晚会，“中心”大多数专家及国际交流基金驻京代表马场克树先生出席了晚宴。
- ◇9月28日(周二)北京日本学研究中心第4次指导委员会召开。国家教育委员会外事司副司长李顺兴、国际交流基金日本研究部长上田孝、外国语学院副院长穆大英等出席了大会。会上着重就第3个5年计划交换了中日双方的意见。
- ◇一年一度的招生工作即将开始。94年度的研究生报名日期为93年11月10日~14日，考试时间为94年1月28日~30日。教师进修班的报名时间为94年2月15日~3月5日，考试时间为3月27日。
- ◇公开讲座：9月23日、10月7日周四下午东京大学东洋文化研究所教授小川裕充、中国社会科学院研究员叶渭渠分别作了题为「米友仁的绘画和文学——山水表现与自题间的关联」和「传统与日本现代化问题」的讨论。另，10月21日王家骅先生的讲座因故暂停。11月25日传马义澄先生的讲座改为由传马先生主持的专题学术交流会，题为「昭和文学の诸相——转换期の精神」。发言人有：山本康治（嘉悦女子短期大学副教授）、柳泽孝子（日本桥女学馆短期大学副教授）、古俣裕介（东京经营短期大学教授）、佐藤健一（日本大学商学部副教授）。

【新任专家自我介绍】

- ☆小川 裕充老师：本人在东京大学研究生院一边进行东亚绘画史的研究，一边从事教育工作。现在，“中心”一期生漆红、张景翔二位正在那里攻读博士学位。希望以后还有同学能来。
- ☆须贺 一好老师：在日本我是向那些要当小学、中学、高中教师的学生讲授日语的结构和使用方法的。通过和中国研究生的交流，我希望能够有所发现。
- ☆铃木 义昭老师：是好是坏暂且不论，我是个中国病患者。算起来，在北京已住了两年多了，加上这次就有三年了。在日本，早稻田大学的留学生称我为“魔鬼铃木老师”。请大家多多关照。

## 【新任专家自我介绍】

- ☆田中 重好老师：已是第三次来日本学研究中心“服务”了。对研究中心以及中国社会的“发展”甚感吃惊。剩下的课题就是同学们研究上的“发展”了。
- ☆中村 义老师：今年三月从东京学艺大学退休后，到了现在的工作单位。大有“日暮道远”的感觉。希望能通过与中国青年的学习和每天的中国名酒的力量，防止老化现象，并想学些中国历史和文化。
- ☆松尾 尊允老师：这是第6次来中国。上次曾于1988年春季来“中心”任教。专业是日本近代政治、社会史，业余爱好是思想史。在中国，业余爱好成了本职工作。目前正醉心于阅读夏目漱石的作品。
- ☆渡边 秀夫老师：曾因买自行车花了两个小时。这样的北京生活已完全习惯，而今自由市场上都有了往常“光顾”的商店，每天体味着专业“和汉比较”的乐趣。

## 就 任 致 辞

竹田 晃

晚于其他专家，我于9月19日作为池田前主任教授的后任来“中心”任职。

去年9月我也来过北京。但这次，首都机场已装修完毕，高速公路也已通车，使我产生一种踏进了新中国大门的强烈感觉。不过，我本想体味“金色的北京”，没想到道路被不是金色的黄色所覆盖。据说这种小型出租车在半年间增到了六万辆，过去必须通过饭店预约出租车的情况得到了彻底的改变。由此也可以窥察到开放经济发展的一面。正如日本的先例所告诉我们的那样，经济的高速发展必定会带来种种弊端。就出租车问题来说，它必定会使交通堵塞、废汽排放、交通事故等问题更加严重。

来到经济这般飞速发展的北京，着手“中心”的工作，尽管以前曾听人介绍过，也按自己的方法“预习”过，但实际上作为主任教授处理事务时，或在教室里与学生接触时，总感觉到“预习”的内容与实际工作之间还有相当的距离。迄今为至的三周都在忙于缩短这段距离。

我的任期到明年9月20日，这一年正好是“中心”总结第2个5年计划、为第3个5年计划作准备的、非常重要的一年。

在历届担任“中心”运营重任的日中双方的诸位先辈的工作成绩的基础上，我希望能尽最大努力，充实、发展“中心”。只是本人才疏学浅，衷心希望日中双方的老师们、同事们以及学生们能给予密切的合作和热情的支持。 (10月8日)

【语言研究会】语言研究室将于10月22日（五）下午2:00在“中心”3层电教室举行第2次研究会。须贺一好、朱春跃老师分别作题为「关于不及物的他动词句」和「汉语有气、无气子音与日语有气、无气子音的生理、音响知觉上的特征」的专业发表。

## [ ニュース ]

- ◇9月24日（金）夕、北京外国語学院副院長穆大英氏が主催する「新任専門家歓迎・中秋節パーティー」が、專家食堂において開かれた。センターの大部分の專家と国際交流基金駐北京代表馬場克樹氏が出席した。
- ◇9月28日（火）北京日本学研究中心第4回運営審議委員会が開かれた。国家教育委員会外事司副司長李順興氏、国際交流基金日本研究部長上田孝氏、外国語学院副院長穆大英氏らが出席した。席上特に第3次5カ年計画について日中双方の意見を交換した。
- ◇今年も学生募集の時期を迎えた。94年度の大学院生の出願期間は93年11月10日～14日、試験期間は94年1月28日～30日、教師研修班の出願期間は94年2月15日～3月5日、試験日は3月27日となった。
- ◇公開講座：9月23日と10月7日（木）午後、東京大学東洋文化研究所小川裕充教授と中国社会科学院研究員葉渭渠氏が、それぞれ「米友仁の絵画と文学―その山水表現と自題との関連について」「伝統と日本の近代化の問題」という題で講演を行った。10月21日の王家驊教授の講座は都合により中止、11月25日の傳馬義澄助教授の講座は、「昭和文学の諸相―転換期の精神」と題するシンポジウムとすることとなった。司会は傳馬義澄、パネリストは以下の通り。山本康治（嘉悦女子短期大学助教授）、柳沢孝子（日本橋女学館短期大学助教授）、古俣裕介（東京経営短期大学教授）、佐藤健一（日本大学商学部助教授）。

## □新任専門家 自己紹介（その1）□

- ☆小川 裕充：小生が、東アジア絵画史を研究しつつ、教育に携わっている東京大学大学院では、現在、センター1期生の漆紅・張景翔両氏が、博士号取得に向けて鋭意勉学中です。後に続くことを期待します。
- ☆須賀 一好先生：日本では、小学校や中学・高校の教員になる学生を相手に、日本語のしくみや使われ方を教えています。中国の大学院生との交流によって、何か発見があればと思っています。
- ☆鈴木 義明先生：善くも悪しくも中国病患者です。北京滞在通算二年余。今回を入れると三年になります。日本では、早稲田大学で留学生諸君の“鬼の鈴木先生”です。どうぞ宜しくお願いします。
- ☆田中 重好先生：日本学研究中心に三度目のご「奉公」です。研究中心と中国社会の「発展」に目をみはるばかりです。残された課題は皆さんの研究上の「発展」です。
- ☆中村 義先生：今年三月、東京学芸大学を定年となり、現職のようになりました。「日暮れて道遠し」の念しきりですが、このセンターでの中国青年との学習や毎日の中国銘酒の力によって、老化現象を防止し、さらに中国歴史や文化を学びたいと思います。

☆松尾 尊兌先生：訪中6回目。前は1988年春の学期に当センターに勤務。オモテ芸は日本近代政治・社会史，ウラ芸は思想史。中国ではウラ芸が本職。今回はひたすら夏目漱石を読んでいます。

☆渡辺 秀夫先生：自転車を購入するのに二時間もかかった北京暮しも、今は自由市場になじみの店ができるほどに馴れ、専門の〈和漢比較〉を日々の体験で楽しんでいます。

## 着任のごあいさつ

竹田 晃（たけだ・あきら）

9月19日、遅ればせながら池田前主任教授の後任として本センターに着任いたしました。

昨年9月にも北京に参りましたが、今回来てみると、首都機場の改修も済み、高速道路も開通し、新しい中国の玄関に足を踏み入れたという印象を強く受けました。しかし、“金色的北京”を楽しみにして来た私は、金色ならぬ黄色に街路が埋め尽くされているのにびっくりしました。この小型タクシーは半年の間に6万台にも達したということですが、以前はホテルで予約しなければ乗れなかったタクシー事情が一変したことにも、めざましい開放経済の進展の一端を見る思いがしました。ただ日本の先例が示すように、経済の急激な発展には必ずひずみがついてまわるもの、つまりこのタクシーの問題に関していえば、交通渋滞・排気ガス・交通事故等の問題が必然的に深刻化することにも覚悟してかからなければならぬでしょう。

さて、このように急テンポの経済発展下にある北京に来て、いよいよセンターでの仕事に取り組むことになりましたが、前もって話を聞いたり、自分なりに“予習”していたことと、現実に主任教授としての事務を処理したり、教室で学生諸君と接したりすることとの間には、やはりかなりのギャップがあり、今日までの約3週間はそのギャップを埋めるのに苦労してきたような次第です。

私の任期は来年の9月20日までとなっておりますが、これはちょうど本センターの第2期5カ年計画の総括の年であり、次の第3期に向けての準備を整えるべき年でもあるという、大変重要な1年に当たります。

これまで本センターの運営の衝に当たられてきた日中双方の諸先輩のご努力の結晶の上に、さらにセンターの充実と発展をめざして精いっぱい努めるつもりですが、なにぶんにも菲才の身でありますので、日中双方の老師們・同事們そして学生們的強いご協力と暖いご支援を心から願っております。（10月8日）

## ☆研究室活動☆

【言語研究室】10月22日（金）午後2:00より、センター3F電教室において、第2回研究会を行う。須賀一好山形大学教育学部助教授と朱春躍北京外語日語系講師が、それぞれ「働きかけのない他動詞文について」「中国語の有気・無気子音と日本語の無声・有声子音の生理的・音響的・知覚的特徴」という題で発表の予定。